

## 平成 24 年度第 2 回 青森市国民健康保険運営協議会 会議概要

日 時：平成 24 年 12 月 27 日（木）午後 1 時～午後 1 時 40 分

場 所：市議会 第 1 委員会室

出席委員：小田桐委員長（議長）、館田委員、永井委員、船木委員、  
工藤（協）委員、村上委員、村松委員、蝦名委員、長内委員、  
佐藤委員、羽賀委員、佐々木委員、工藤（宏）委員（計 13 名）

欠席委員：近藤委員、菅原委員（計 2 名）

事務局：健康福祉次長 和田孝行、国保医療年金課長 木浪龍太、  
健康づくり推進課長 里村誠司、納税支援課長 川村敬貴、  
浪岡事務所健康福祉課長 齋藤実、国保医療年金課主幹 佐々木潤一、  
国保医療年金課主幹 寺山達郎、国保医療年金課主幹 工藤雅仁、  
国保医療年金課主幹 高村光昭、国保医療年金課主査 工藤一天、  
国保医療年金課主事 花田和俊（計 11 名）

### 会議次第

- 1 開 会
- 2 辞令交付式
- 3 健康福祉部次長挨拶
- 4 組織会
- 5 報告案件  
( 1 ) 平成 23 年度青森市国民健康保険事業特別会計実績報告
- 6 閉会

### 辞令交付

小田桐金三委員、館田瑠美子委員に、健康福祉部次長から辞令が交付された。

### 組織会

小田桐委員を推薦する者があり、全委員異議なく小田桐委員が会長に選出された。  
( 小田桐委員了承 )

### 議事要旨

**報告案件( 1 )平成 23 年度青森市国民健康保険事業特別会計実績報告**  
事務局より資料 1、資料 2 のとおり説明があった。

## 質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

- ・ 被保険者数が年々減少しているが、どのようなことが考えられますか。  
(事務局) 75歳から後期高齢者医療制度に移行することが一番の要因である。
- ・ 本市の1人当たりの医療費は全国に比べるとどうなのか。  
(事務局) 平成23年度の全国の市町村国保1人当たりの医療費は305,276円であり、本市の方が若干高い。
- ・ 12月の広報では、単年度赤字が8億9千万円となっているが、被保険者1人当たりにはすると1万円ほどの赤字になると思われるが、基金残はどれほどか。  
(事務局) 単年度赤字を単純に被保険者数で割ると約1万円となる。基金残高は0である。
- ・ 特定健診や特定保健指導が目標値から離れているが、どのような努力をしてきたのか。  
(事務局) 受診勧奨に関しては、受診券、案内チラシの個別送付、広報あおもり、市ホームページ、テレビ広報、町会回覧、低受診地域等の訪問勧奨、未受診者に対する受診勧奨ハガキ、電話勧奨、土日の集団検診、市医師会の協力の下、かかり付け医による積極的な受診勧奨を行なっている。  
また、今年度から電話回線2回線増やし、個別に電話での勧奨を拡大している。集団検診も、全年齢に拡大し実施している。
- ・ その取り組みの結果どうなったのか。  
(事務局) 電話回線については、11月に開始したため、結果はまだわからない。集団検診を全年齢に拡大したことにより、9月までの実績で前年度の同時期と比較し、9%ほど伸びている。
- ・ 特定健診と保健指導は他の市町村と比較してどのようになっているか。  
(事務局) 県内3市では、平成23年度実績で本市が一番高い。また、中核市では、平均よりも高いものとなっている。